

Scedosporium apiospermum に対する高純度軟化水およびパルミチン酸塩の増殖抑制効果
大森啓太郎¹⁾、宮川まどか²⁾、高井政貴²⁾、田中あかね¹⁾、吉成佑治²⁾、松田浩珍¹⁾
(農工大・獣医分子病態治療学¹⁾、三浦工業株式会社²⁾)

【目的】*Scedosporium apiospermum*は土壌などから検出される真菌であり、近年、ウマ、反芻動物、イヌなどに対して、蹄真菌症、菌腫、角膜炎などを引き起こすことが報告されているが、有効な予防法および治療法は確立されていない。そこで本研究においては、石鹼を構成する各種脂肪酸塩と異なる水質の組み合わせによる*S. apiospermum*に対する増殖抑制効果を検証した。【方法】蒸留水、水道水またはカルシウムイオンおよびマグネシウムイオンをナトリウムイオンで置換した高純度軟化水の存在下で、石鹼を構成する各種脂肪酸塩と*S. apiospermum*を培養し、その増殖抑制効果を測定した。【結果】蒸留水存在化で各種脂肪酸塩の*S. apiospermum*に対する増殖抑制効果を検討した結果、パルミチン酸塩が最も強く*S. apiospermum*の増殖を抑制した。次に、蒸留水、水道水または高純度軟化水の存在下でパルミチン酸塩と*S. apiospermum*を培養し、その増殖抑制効果を比較した結果、高純度軟化水が最も強く*S. apiospermum*の増殖を抑制した。さらに、高純度軟化水に含有される各種イオンの*S. apiospermum*に対する増殖抑制効果を解析した結果、高純度軟化水にカルシウムイオンおよびマグネシウムイオンが含有されず、ナトリウムイオンが高濃度含有されていることにより、増殖抑制効果が促進されることが明らかとなった。【考察】本研究結果から、パルミチン酸塩を主成分とする石鹼と高純度軟化水を用いた日常的な洗浄が、*S. apiospermum*を原因とする各種感染症の予防法および治療法として有効である可能性が考えられた。